

1 題材名 もっと日本の音楽に親しもう パート 2 ～ 歌曲に浸って・・・～

2 題材について

(1) 題材の価値と魅力

音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」である。

本題材は、小学校学習指導要領において以下のように位置づけられている。

A 表現

(1) ーイ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

ーウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。

B 鑑賞

(1) ーイ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ーウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

我が国には、歌い継いでいきたい優れた歌曲や合唱曲がたくさんある。これらの曲は日本語の美しい歌詞と言葉のもつ語感を大切にしておつくりられた旋律が一体となって、歌う人や聴く人の心を捉える魅力にあふれているものである。しかし、子どもたちが普段聴いたり歌ったりしている歌は、コマーシャルソングやアニメソング、J-POPやボーカロイドなどがほとんどである。また、その多くが、恋愛や青春をテーマにした歌詞だったり、踊りを伴ったリズムカルなテンポや旋律で構成されたりしている。ここでは、普段慣れ親しんでいる歌とは真逆の関係にあるともいえる歌曲を「日本の音楽」の中に位置づけ、滝廉太郎という作曲家との出会いを通して、歌曲の魅力に浸り、歌曲をもっと身近に感じられるようにしていきたい。

一般的に、「日本の音楽」または「我が国の音楽」は、日本の伝統音楽としての和楽器や能などの伝統芸能を指すことが多い。そんな中、近年は小学校の音楽科において日本のうたや音楽を教科書題材に系統的に配列し、指導するように構成されている。低学年と中学年では、わらべ歌や童謡、祭り囃子や民謡など生活に根付いている教材を通して日本の音楽に親しみ、高学年で「世界と日本の音楽に親しもう」において日本の伝統的な音楽について触れるようになっている。

また、歌曲や合唱曲について、教科書題材では「詩と音楽を味わおう」と位置づけられて鑑賞と表現の活動を4時間で扱うことになっており、教材曲「思い出のメロディー」「花」「箱根八里」を通して、歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら聴いたり、歌ったりすること、言葉のまとまりや語感を生かして歌うことをねらっている。しかし、歌曲の魅力子どもたち自身に感じ取らせるためには、日本の音楽の1つとして扱い、日本人として自分たちが歌い継ぎたいと切実感をもてるようなアプローチが有効ではないかと考えた。

本題材では、曲想を決定付けている最も重要な要素の一つである旋律に着目し、その特徴を感じ取ったり、それによって生まれる曲想を捉えたりしながら、表現と鑑賞の活動をすすめていくことができる。また、歌詞と旋律とが一体となって生み出す曲想を感じ取りながら聴いたり、言葉のま

とまりや語感を生かして歌ったりして、日本語のもつ美しさを味わうことができる。

鑑賞教材曲「花」「箱根八里」「荒城の月」は全て滝廉太郎作曲である。日本の歌曲は、滝廉太郎によって生まれたといえる。それまでの日本の歌は、西洋音楽の旋律に言葉をのせて作られてきた。その結果、歌詞と旋律が何となくぎこちないと感じていながら歌ってきたといわれている。滝廉太郎は、「日本人が書いた歌詞に、日本人が作った旋律をのせた日本の歌を自分の手で作りたい」と強く思い、日本の言葉に音楽をのせて数々の歌曲を創りあげてきた。その中でも「荒城の月」には国境を越えて人々に感動を与えたというエピソードがあるが、あまり知られていない。これらの歌詞には小学生にとって理解が難しい言葉も含まれているが、教科書を参考にしながら歌詞の内容を理解するとともに、朗読を通して言葉のもつリズムやアクセントを感じ取ることができる。また、その情景を思い浮かべながら曲想を味わって聴いたり歌ったりすることができ、今失われつつある日本の自然風景と自然とともに生きる人の生活を想像することができるものである。さらに、旋律の美しさと躍動感や合唱の演奏形態の違いにも気付きやすく、変声期を迎える子どもたちが声の魅力を感じ取ることにもできる。「荒城の月」は教科書教材では扱われていないが、滝廉太郎の生涯にも触れ、表現活動を取り入れた鑑賞活動において曲想の違いを味わうといった、小学校における歌曲の聴き方を中学校につないでいきたいと考えた。

(2) めざす子どもの姿について

本学級の子どもたちは、本校のカリキュラムにおいて、さまざまな国や地域の音楽について幅広く取り組んできている。そのため、表現活動において苦手意識をもつ子どもたちが少なく、表現の技能に大きな差が生じないのではないかとと思われる。一方、6年生になり、器楽表現活動には意欲的に取り組むことができるが、歌唱表現活動への意欲や関心をもちにくい様子が見られるようになってきた。また、鑑賞活動では鑑賞曲から多くの気付きや感受をしているにもかかわらず、それが音楽を形づくっているどんな要素がかかわっているのか思考しながら聴くことができない子どもも多い。それは授業において感じ取ったことが音楽を形づくっている要素とどのようにかかわっているのかをつなぐ活動経験が少なかったためではないかと考えられる。また、5年生で扱った「詩と音楽を味わおう」では、教材曲「野空海」について、旋律の力が曲の魅力を大きく左右することを感じ取り、美しい旋律に詩が加わることでさらに旋律のよさを味わえたり、詩の情景や作詞家の思いを想像しながら表現する楽しさを味わったりした。ただ、作曲家や音楽家との出会いが充実していたとはいえないところが課題として残っていた。そこで本題材では、作曲家との出会いを大切にしながら、前題材「もっと日本の音楽に親しもう パート1 ～和楽器に触れて～」で感じ取ったり、身につけたりしたことを深めたり、広げたりすることができる子どもの姿をめざしていく。学習前のアンケートによると、子どもたちにとっての「日本の音楽」は和楽器で演奏されている音楽や演歌だという回答が最も多かった。こうした子どもたちが自分の心の中に「日本の音楽 歌曲」という思いが芽生えるようにしていきたい。具体的には、鑑賞活動において、感じ取ったことと音楽を形づくっている旋律と歌詞とを関連づける個の思考の姿を、そして、表現活動を通して友だちとかかわる中で、個の思考を確かめたり、深めたりする姿をめざす。また、表現活動において、感じ取った歌詞と旋律の美しさを自分のイメージ通りに表現できるよう、自分の思いや意図をもって友だちと声を聴き合いながら歌っては聴き、聴いては歌う姿をめざしたい。歌唱表現を苦手とする時期の子どもたちが、滝廉太郎という人物と出会うことを通して自分のお気に入りの歌曲と出会い、歌いつないでいきたいと思える歌をもち、その魅力を自分の音楽や言葉で表現する姿をめざしたい。

(3) 本時に向けた教材研究

歌曲や合唱曲を時代背景や人物とかかわらせながら歌詞（詩）と旋律に焦点化した鑑賞活動を行い、より具体的なイメージをもって曲想を感じ取ることができ、思いや意図をもって歌うことにつながりたいと考える。日本の情景を美しい言葉で紡いだ歌詞（詩）が旋律にのって音楽となる、そうした面白さや美しさに心が動くのではないかと考えるからである。もう一つは、子どもたちの「思考のつながりに視点をあてて」題材を見つめたとき、我が国の音楽が時代の流れとともに変わっていく様子を音楽から感じ取ることが自然ではないかと考え「もっと日本の音楽に親しもう パート2～歌曲に浸って・・・～」と本題材を設定し、題材構成と授業づくりに取り組むことにした。前段階の「もっと日本の音楽に親しもう パート1～和楽器に触れて～」では、器楽に焦点化し、一般的にいわれる和楽器を表現する活動を通して親しんでいる。親しむためには時間や感動体験が不可欠であると考え、パート2では、作曲家との出会いを大切にしながら、パート1における思考をつなぐとともに低学年から積み上げてきた日本のうたや音楽とをつなぐ題材の構成を工夫することで、たっぷりと歌曲に浸り、身近に感じ、親しみをもつことにつながると思う。

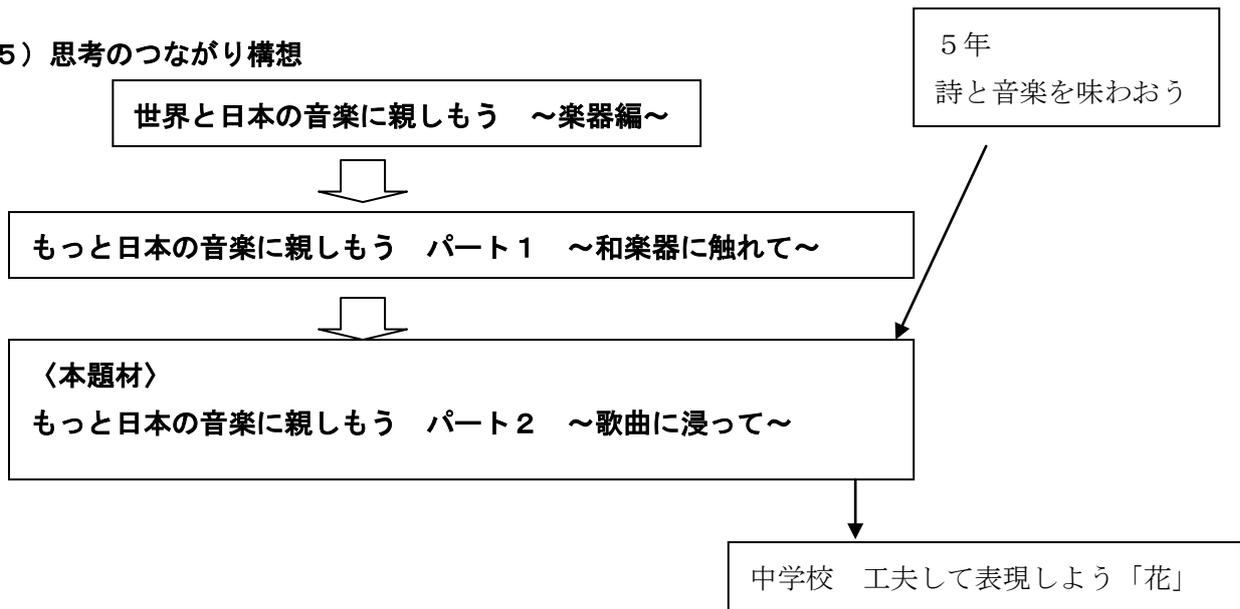
自分のお気に入りの歌曲や心のうたをもつためにはさまざまな工夫が必要となる。そこで、導入には、「越天楽今様」と「さくらさくら」を鑑賞し、我が国の音楽の大きな特徴を想起させたい。時代背景や情景と関連づけながら聴き味わうことで実感を伴った感受につながれると考えるからである。歌詞付きと歌詞なしの音楽で比較鑑賞を行い、言葉が加わることで音楽がどのように変化したかを子どもたちの言葉で語らせることで、歌曲との出会いにつなげていく。歌曲との出会いは、まず、作曲者である滝廉太郎との出会いに6年生の子どもたちが感動を得られるように「なぜ、滝廉太郎は教科書教材に多く取り上げられているのか、彼の歌曲はどこの何がすばらしいとされているのか」それらについて、いくつかのエピソードを交えた語りを仕組んでいく。次に、パート1との学習をつなぐ大切なキーワード「言葉」を大切に、滝廉太郎が実際に作曲したような、主旋律だけの演奏を聴き、言葉と旋律との関係をつかませ、言葉と旋律との関係を捉える力は、既に子どもたちのもつ感覚として既にあることを、子どもたち自身に実感できるようにし、もっと聴きたい、学習したい曲を選択し、次時への意欲をもたせたい。

本時においては、導入部分で、学級が選んだ2つの歌曲を扱い、歌詞と旋律とのかかわりだけでなく歌曲のすばらしさをいろいろな視点で感じ取ることができるようにする。その後、「花」に曲を絞り、表現活動を取り入れた鑑賞活動を行う。感じ取ったことがどのリズムや旋律の動きとかかわりをもっているのかについて個人で思考したり、感じ取ったことを歌唱表現する中で確かめたり、歌唱表現することで新たな気づきを得たりすることが期待できる。ここでの新たな気づきは、それぞれの旋律に少しずつ変化が加えられているということである。言葉を大切にすることで、旋律を変化させた「滝廉太郎」と「花」の魅力を、子どもたち自身にもこだわりの言葉と旋律を選択して表現する活動を通して、感じられるようにしたい。そしてそれぞれのこだわりのフレーズをつないで学級全体で「花」を歌い、最後は教室の人たちによる「花」を鑑賞することで、歌唱表現活動への意欲につながるようにする。表現活動を取り入れた鑑賞活動によって、思考したり、感じ取ったりしたことを音や動きを通して、子どもたち同士がつなぎ、鑑賞と表現の活動を行きつ戻りつしながら本時のねらいにせまりたい。

(4) 題材の目標

- 歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら聴いたり，思いや意図をもって歌ったりする。
- ・詩と音楽が一体となった曲想を味わいながら聴いたり，語感を生かして歌う活動に主体的に取り組んだりする。 (音楽への関心・意欲・態度)
- ・言葉のまとまりや語感と旋律とのかかわり，歌詞の表す情景や気持ちを感じ取り，曲想を生かした表現の仕方を工夫することができる。 (音楽表現の創意工夫)
- ・言葉のまとまりや語感，重なり合う旋律の特徴を生かしながら響きのある声で歌うことができる。 (音楽表現の技能)
- ・日本の歌曲の詩や旋律の美しさ，合唱形態の違いが生み出すそれぞれのよさを言葉で表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさを味わいながら聴くことができる。 (鑑賞の能力)

(5) 思考のつながり構想



《本題材における思考の構想》

	子どもの思考	学習活動と教師の意図
第1次 第1時 題材と出 合う 〈出合う〉	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歌といったら演歌だ ・いろいろ日本の歌は生まれたのだろう ・メロディーや楽器の音色だけでなく，歌詞があると様子や情景をイメージしやすく曲に気持ちのがのせやすいなあ。 ・「歌曲って何だろう」 ・美しい情景や自然を描いた歌詞だなあ。 ・言葉と旋律は大きく関わっているなあ。 ・「歌曲のすばらしさって何だろう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌曲が生まれるまでの歌を聴いたり歌ったりして日本の歌について興味をもたせたい。 ○「越天楽今様」と「さくらさくら」の歌詞なしと歌詞付きとを聴き比べ，日本の歌について感じ取ったことを伝え合う活動を通して歌唱表現の魅力を感じ取らせる。 ○3曲の歌詞を掲示し，それぞれの歌詞の内容を理解してピアノの主旋律を聴く活動を通して言葉と旋律の関係を感じ取らせ，もっと聴きたい2曲を選択させる。(滝廉太郎の生涯・歌詞の内容理解・言葉と旋律のかかわり・主旋律)

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学習活動	教師の意図・支援・評価
<p>1 「花」「箱根八里」の歌詞が表す情景を想像しながらCDを聴き、今日のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴奏がついている。 ・曲によって声が違う。 ・男声と女声だ。 ・一人一人の声が生きている。 ・「花」は伴奏が美しい。 	<p>○それぞれ1度だけ曲を流すこと、感じたことや気付いたことを2つ以上は言えるようにすることを声かけし、鑑賞活動に集中できるようにする。</p> <p>◇歌詞を掲示し、出合った歌曲を思い起こせるようにする。</p> <p>○子どもたちの気付きを、2曲の共通部分が「歌曲」のもつすばらしさであることがわかるように整理しながら板書する。</p> <p>◎複数の視点から2曲のすばらしさを感じ取ろうとしている。</p> <p>◇子どもたちの気付きから本時のめあてにつなげるようにする。</p>

聴いて 歌って 感じ取ろう! 「花」のすばらしさ

<p>2 「花」のすばらしさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花」は主旋律が変わっていくよ。 ・歌詞にあった声で表現しているな。 ・言葉に合わせて変えたのかな。 	<p>○「花」のすばらしさに気づけるように、言葉と旋律に焦点をあてて聴くようにし、子どもの気付きからねらいにせまるようにする。</p> <p>◇なぜ旋律を変化させたのか、考えながら聴くようにする。</p>
<p>3 お気に入りのフレーズを見つけて理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちには表現しきれないけど、高い声が生かせる旋律だから。 ・この部分のこの音の重なりが美しいから。 ・「花」の美しさを盛り上げる3番の終わりの部分のこの旋律が歌詞とぴったりで好きだな。 	<p>○自分のお気に入りのフレーズを選び、歌ったり、聴いたりする活動を通して、お気に入りの理由を感じ取ることができるようにする。</p> <p>◇お気に入りの理由を言葉と旋律に着目して記すように助言する。</p> <p>◇変声期で声が出にくい子へは、出しやすい声で歌ったり、手や体の一部を動かしたりして感じ取るように声をかける。</p> <p>◎お気に入りの理由からすばらしさを感じ取っている。</p> <p style="text-align: right;">【観察・ワークシート】(鑑賞)</p> <p>○それぞれが感じ取ったフレーズのよさを味わいながら歌うようにする。</p>
<p>4 言葉と旋律を味わいながらお気に入りのフレーズをそれぞれが歌い、「花」を完成させる。</p>	<p>◇1人も歌う人がいないフレーズについては、教師が歌い、曲がつながるようにする。</p>
<p>5 歌曲のすばらしさを味わいながら「花」を聴き、ふり返りをする。</p>	<p>○「花」の生演奏を鑑賞し、次時への意欲をもてるようにする。</p>